

ぶらり
ライブラリー

特に目的があるわけではないけど、ぶらっと来てみたら、気になることに会える場所。このコーナーでは毎回NICライブラリーを紹介をします。

多文化共生マンガコーナー

外国にルーツをもつ人、国際結婚をした人、外国人の児童生徒が多い学校の先生、海外で外国人というマイノリティーの立場を経験した日本人などが自らの体験を綴ったマンガ本を「多文化共生コーナー」に集めました。

登場する舞台も、学校や病院、地域、家庭と様々です。誰もが「そうそう」とうなずける場面もあれば、自分が当然だと思っていたことが、文化が違えばそうではなかったり、何気ない行動に注目されたりと、驚きと発見の連続です。どの作品もその時々



の正直な自分の気持ちを飾らない言葉と絵でまとめられています。学校現場では外国にルーツをもつ子どもたちが「外人／ガイジン」と呼ばれ、疎外感を感じた辛い経験が多く紹介されています。「ガイジン」とい

う単語で十把一絡げにされて、いつまでたってもその存在を個人として見てもらえず、仲間としても認めてもらえない寂しさもリアルに伝わってきます。



▲様々な舞台が取りあげられています

これらの本は、「多文化共生」にはいろいろな形がある。文化の異なる者同士が同じ時間を共有し、試行錯誤を重ねながら一緒に共生の道を辿ることで、それぞれに合った共生の形が生まれる。そして、その道のりに「近道はない」ということを教えてくれます。

まだまだ冊数は少ないですが、とてもパワフルな作品ばかりです。一話完結のものが多く、ちょっとした隙間時間に手に取って読むこともできます。ぜひ手に取ってみてください。

姉妹友好
パートナー
都市の広場

名古屋市と米ロサンゼルス市は1959年4月1日に提携を結び、両市にとって最初の姉妹都市として60年以上にわたり友好関係を築いてきました。今回は、名古屋市とロサンゼルス名古屋姉妹都市委員会(LANSCA)の主催で行われた、交流イベントの様子をお伝えします。

「ロサンゼルス名古屋交歓高校生リユニオン2021」を開催
オンラインで感動の再会

姉妹都市提携の翌年から毎年、高校生を相互に派遣する「交歓高校生派遣事業」を行い、友好親善を深めてきました。しかしコロナ禍により昨年からは中止せざるを得ませんでした。今回、ロサンゼルスと名古屋の交流を途絶えさせないよう、初の試みとして、これまで参加した当時の交歓高校生の皆さんが集い、オンラインでリアルタイムの交流を図るリユニオン(同窓会)を7月31日に開催しました。

自己紹介や交流のパートでは、現在の職業や学業など、参加者それぞれが自身の近況について語り合いました。久々の再会に感極まる場面も。ロサンゼルスからの参加者が「名古屋でホームステイした際に日本語が話せず悔しかった思いから、大学では科学と日本語の両方を専攻した」、「この交歓プログラムがきっかけとなり、現在は奨学金制度を

▲久々の再会に皆さん、笑顔!

利用して日本で学んでいる」などと報告する一方、名古屋からの参加者からは「コロナ禍で外国留学ができないうが、大学で国際関係を学んでいる」、「現在、自治体職員として国際課で務めている」と話す元交歓高校生や、「現地のホストを務めた先生がプライベートも充実した生活を送っている姿を見て、自分も人生を謳歌し楽しまなくては!」という思いに至ったと振り返る引率教員もいて、このプログラムを通して得られた経験が、参加者のその後の人生に大きな影響を与えてきたことがうかがえました。

また、現地での様子を撮影した写真を動画に仕立てたスライドショーも放映。当時の懐かしい仲間やホストファミリーの姿、心温まる思い出の数々に、参加者からは多くの笑みがこぼれていました。



▲会場に集まった名古屋の参加者@LANSCA

名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。ぜひご覧ください。

リニュアルしました! Web <http://nsca.gr.jp/> Facebook [nagoya.sistercities](https://www.facebook.com/nagoya.sistercities) 検索

初次見面, 請多关照
チュウツー ジェンミイエン チンドウグワンヂョウ
はじめまして・よろしくお願ひします。

国際留学生
会館から

「一年間の留学生生活を振り返って」
～来日できて良かったです!～

愛知県立大学教育福祉学部 交換留学生
汪 紅さん(中国出身)



私は、昨年の11月に交換留学生として来日し、国際留学生会館(以下「ISC」)に入居しました。日本への留学を決めた理由は、母国の大学で日本語を専攻しているため、これまで培った日本語能力がどの程度通用するのかを試してみたかったからです。同時に留学生生活を通じて、日本人や様々な国から来た留学生と交流し、お互いの理解を深めたいと考えました。



▲生け花の指導を受ける(左側が汪紅さん)

コロナ禍で来日した私を待っていたのは、大学にも通えず、自宅でオンラインの授業を受ける日々でした。思い描いていたキャンパスライフを送ることができず、不安やストレスを抱えるようになりました。そんな私の心を癒してくれたのが、一緒に入居していたロシア人留学生や日本人チューター*でした。彼女たちはいつも私に寄り添ってくれて、お互いに悩みを打ち明け

合ったり、励まし合ったりしていました。彼女たちとの触れ合いを通して、国籍や文化が違っても、お互いを尊重し合い、思いやりの気持ちで接することの大切さを学びました。

さらに私の心を和ませてくれたのは、ISCが開催する日本文化体験プログラムでした。私は「生け花講座」と「ゆかた着付け体験会」に参加しました。日本の伝統文化に触れることで心が落ち着き、日本人が古くから大切にしてきた習慣や礼儀作法などを学ぶことができました。

浴衣は母国にお土産として持ち帰り、学んだ知識を生かして家族に着付けをあげたいと思っています。そして家族で浴衣を着て、日本での体験を共有したいと思っています。



▲浴衣の着付けに挑戦(左端が汪紅さん)

*留学生の日常生活について助言したり、ISCの事業や運営に協力する学生。

国際留学生会館とは…

NICが2001年から管理・運営している、留学生専用の宿泊施設(名古屋港区)。居室90室のほか研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

やさしい 易しい & 優しい
日本語を使おう!

「自転車放置防止」のリーフレットを作成しました!



皆さんは、このマークを知っていますか? 自転車を停めてはいけない場所(自転車等放置禁止区域)を示しています。自転車を利用する外国人の方は多いですが、「このマークは一体何?」「なぜここに自転車を置いてはいけないの?」「自転車を置いていい場所はどこ?」など、言葉の壁や文化の違いにより、きつと戸惑いを感じることでしょ。一方で、対応する職員も、日本語でうまく伝えられないもどかしさを感じているそうです。

このリーフレットでは、駐輪場の利用方法や、撤去された自転車の受け取り手続きなどについて、イラストを交えながら「やさしい日本語」で紹介しています。リーフレットは、NICのやさしい日本語ボランティアが作成しました。他にも生活に役立つ情報を「やさしい日本語」で発信しています。ぜひ広くご活用ください!

「自転車放置防止」リーフレットはこちら➡



やさしい日本語ボランティアによる作成物一覧はこちら➡



やさしい日本語
クイズに挑戦!



このリーフレットでは「駐輪場」を「自転車をとめるところ」と言い換えて、写真も示しています。では、「歩道」はどう言い換えますか?



「やさしい日本語」の標準日17726